

高山樗牛賞 奨励賞贈る

石井さん 記念講話 「俳句は人なり 忘れずに」喜び語る

地方の文化向上に尽くした人に贈られる高山樗牛賞の授賞式が25日、鶴岡市東原町のクランドエル・サンで行われた。



高山樗牛賞を受賞した石井さん(中央)に表彰状が贈呈された

樗牛賞は、庄内が生んだ明治の文豪・高山樗牛の偉業を顕彰し、地方文化の向上を目的に鶴岡市教育委員会が1958年に制定。庄

内に居住し、文芸・評論・作文などで功績があった人に贈られるもので、今回で64回目。

今年、俳句の文芸活動を通して地方文化の啓発向上に努めた石井野洲子(本名・安子)さん(81)が受賞した。児童生徒対象の高山樗牛奨励賞には、昨年度の青少年読書感想文全国コンクールで文部科学大臣賞を受賞した鶴岡南高2年の富樫永理奈さん(17)と、2019年の県高校文芸コンクール散文部門で優秀賞を受賞した酒田東高3年の加藤滄奈さん(18)が選ばれ、授賞式で3人はそれぞれ表彰状や盾、メダルなどを受け取った。

記念講話では、石井さん

は10代からの俳句人生を振り返り、「今の場に立っていることが本当に幸せです。これからも『俳句は人なり』を忘れず生きていきます」と喜びを語った。富

樫さんは、曾祖父が愛読していた広辞苑で読書感想文を書いた背景を説明し、「読書を通して学んだ優しさや感動を忘れずに、立派な大人になれるよう努力していきます」と話した。加藤さんは受賞作品について「自分を变えたいという強い思いがなくとも、日常のふとした出来事に気付ければ人は変えられるということを伝えたい」と話した。